

20年目の葉山

村山市立葉山中学校
学校だより
第7号
令和5年7月7日

「夢はそれぞれ」七夕に願いを

校長 富塚 義幸

漁師 [保育園の時]、大工 [小学校の時]、何をしたいか考えられず [中学校の時]、貿易の仕事か医師・看護師 [高校の時]、教師 [予備校の時] …私が「やりたいなあ」と思った仕事です。記憶をたどってみました。(もっとたくさんあったような気がします。) 7月5日(水)、五十嵐 健 尾花沢市教育委員会教育長のお話を聞く機会がありました。平昌五輪スピードスケート金メダリストの小平奈緒さんと鉄道風景画家の松本 忠さんの考えに触れ、「夢をど真ん中で叶える」「夢は真ん中で叶わなくていい」という言葉が印象的でした。山形新聞7月6日(木)の記事は、二つ目の言葉に関連しています。以下、全文です。

『審判員の夢 真っすぐに』

＝ 米沢中央高野球部マネージャー・島貫さん ＝

第105回全国高校野球選手権記念山形大会が7日に開幕する。野球部の3年生として「最後の夏」に選手を支えながら、公認審判員となり将来活動することを目指す男子マネージャーがいる。米沢中央高の島貫大和さん(18)＝長井市清水町。体調の問題で高校でプレーを続けることは断念したが、「好きな野球にずっと関わっていきたい」と、登録に向け日々勉強を重ねている。

米沢中央高で外野手として活躍した12歳上の兄翔太さん(29)に憧れ、小学5年から本格的に野球を始めた。長井北中では一塁手を務めた。一方で小学校高学年ごろから、運動すると胸が苦しくなったり体がだるくなったりする原因不明の体調不良に苦しんだ。医師から激しい運動を控えるよう言われた。悩んだ末、高校では選手をサポートする側に回ることを決意した。もともと審判に興味があった。米沢中央高野球部に入部するとマネージャーの仕事の傍ら、審判員になるための勉強も始めた。練習試合などでは球審を務め、捕手の後ろに立つと気持ち引き締まる。プレーするのが同部の仲間でも、ルールにのっとり公正に判断した。今年4月には、米沢地区野球連盟の審判技術講習会に参加した。審判員に接する機会があれば、熱心に質問し、技術を教わった。そんな島貫さんの努力を見てきた色摩孝二監督(53)は、「これも高校野球。選手と彼が互いに学び合う関係になっているようだ」と話す。夏の甲子園を目指す同校の初戦は8日。島貫さんは同大会では、チームのマネージャーとしての役割に全力で当たる。「一戦一戦大事に戦ってほしい。悔いが残らないようしっかり選手をサポートしたい」と語る。「夏」を終えたら、地区内の大会などで実戦を積んだ上で全日本野球協会の公認審判員の登録を目指す。公認審判員として活躍するには、あらゆる場面に対応できるようルールブックの内容を頭にたたき込み、ジェスチャーも磨く必要がある。「選手にとって分かりやすく、スムーズに試合を運ぶことができる審判員になりたい」。将来は、審判員として高校野球山形大会決勝のグラウンドに立つつもりだ。(大坪千絵)

選手支える3年の夏「野球が好き」日々勉強

7月6～7日、2年『職場体験学習』を実施しました。職業への理解を深め、それぞれの夢の実現に生かすことができましたら幸いです。(詳細は次号でお知らせ)



特集：一足先の夏休みの過ごし方 “私の中学時代”

“心うきうき”夏はなんだか心をはずませる！それはなぜか？自分で計画を立てられ、自分の意志で活動できる『時間』があるからです。まだ先の夏休みですが、後悔しないために『一日4ブロック計画』を紹介します。まず、一日を4ブロックに分けて考えます。



夜10時から朝6時までは（個人差はあるが）睡眠時間としてとります。つまり『寝る活動』です。残りの3つのブロックについて活動を計画していきます。夏休みが明けると、「だらだら過ごしてしまった！」という声をよく聞きます。それは、やるべきことがはっきりしないままの生活を何日間も過ごすから感じてしまうのです。無目的に生活するから感じてしまうのです。勘違いしないでください。私は、「勉強だけやりなさい。」と言っているのではありません。漫画を読むことも目的のある活動であり、楽しみを与えてくれます。大切なのは**バランス**です。

（「漫画」を自分の好きなことに置き換え読んでいきましょう。）一日中漫画を読んで、「あ～あ、今日は漫画だけ読んで終わった…」なんて後悔があったら漫画に対して失礼です。読んでいるときは楽しくても、あとで後悔したら楽しんだ意味がなくなります。（楽しみは次の活動のエネルギーになります。）「俺は、漫画を今日思う存分に読んだぞ～！」と胸をはれるくらいでなければ…ちょっとおおげさですね。皆さんが、今、一番気になることは、「受験勉強は大丈夫かな？」とか「数学や英語が少し難しくなってきたぞ…」など勉強についてだと思います。不安をなくすために、まずは『勉強』をひとつ以上のブロックに入れます。中学3年生を例に考えてみます。中学**3年生**の夏休みの学習時間の平均は**6時間**とされています。まとめて入れても、一日に何度かに分けて入れてもかまいません。「最初から6時間は無理だ…」と思う人は、自分がやれる時間を設定し、10分ずつ伸ばしていきましょう。「勉強」の時間を決めたら、その他のブロックに楽しめることや勉強以外でやるべきことを入れていきます。「今日は、漫画おもしろかったなあ～」とつぶやいたあと、「勉強もしたし！」なんてつぶやけたらいいですね。部活動で、3年生の皆さんは後輩よりも上手にプレーすることができます。それは、3年生が計画的な練習メニューを作り、継続して練習してきたからなのです。積み重ねた時間は成果につながっていきます。すぐ上手になろうなんて思っても、そんなに甘いものじゃないですよ。

『よい結果を得るには過程が大切』です。日常生活の中には、『よい結果を得るために過程（計画と実行）を大切にすること』をいかす場面がたくさんあります。**2年生の学習時間の目安**は、何時間でしょうか？**1年生の学習時間の目安**は、何時間でしょうか？それぞれの立場で考えてみよう。夏休みの中間あたりで、不思議なことが起きてきます。最初、3年生が6時間かかっていた学習内容はもっと短い時間でできるようになってきます。『やり方が分かる』ようになってくるからです。二度と同じ間違いを犯さないために、分からないことや間違ったことについてだけトライすればよいということを、経験で身に付けてきます。分かる問題には時間はかけず、効率的に勉強を進めることが自然にできるようになります。そうなってくると、自分の好きなことにもっと時間をかけることができます。なんだか得した気分です。試しにやってみてはどうでしょう。

1学期のしめくくりの生活を大切に、

一日のリズムを見直し夏休みを迎えよう！

